



名古屋大須ロータリークラブ

2009-2010 年度 R.I. 会長
ジョン・ケニー John Kenny
Rotary International President

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-OSU WEEKLY REPORT

<本年度クラブ会長方針>

No.1064

ロータリーの未来は
あなたの手の中に

やっぱり、大須ロータリークラブだね

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日12:30 例会場 名古屋東急ホテル
会長 内藤 明 事務局 名古屋市中区栄4丁目6番5号 丸越ビル6F
幹事 柴岡 正将 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008
URL <http://www.nagoya-osu.org> E-mail office@nagoya-osu.org

第1257回例会

議事率向上月間

平成22年3月11日(木)

於 名古屋東急ホテル

会員 64名

出席計算数

56名中45名出席

出席率 80・36%

前々回出席率 90・74%

ロータリーソング

「われらひまわりの」

指揮者 鈴木 基仁

ピアノ伴奏 富板 玲子

ゲスト

一柳葬具総本店 取締役社長

(名古屋中R.C)

一柳 鍾さん

ニコボックス

こころちは。 一柳 鍾さん

一柳さん、よろしくお願ひ致します。

内藤 明・前田 隆久

一柳先輩をお迎えして。

岩崎 征一・丹下 富博

38回目の結婚記念日です。

吉田 隆彦

結婚記念日です。 草野 勝彦

やっと春めいて参りました。 渡辺 剛男

会長挨拶

会長 内藤 明

皆さん今日は。3月になり季節もめっきり春らしくなりました。春にならぬと出かける機会が多くな

ります。目的は年齢的にお寺やお宮を訪れる事が多いですね。お寺やお宮で言つとやはり京都ですね。

京都には色々な神社や寺院がありますが、変わった神社では縁切神社があります。皆さんも何度が京都の観光地めぐりをされた事と思いますが、「こは行かれた事がないと思います。よくカッパルで行くと近いうちに必ず別れる事になる」と言われます。場所は八坂神社の近くで正式名称は「安井金比羅宮」と言います。「こは行くと縁切りのお札を貼る場所がありますが、貼る重なられたお札の厚みが地層のよう5cm位の厚みになっています。又、お札の内容が凄いです。「正将と離婚でき、明と結ばれますように」又、「ムタな脂肪と縁が切れ良縁に恵まれますように」

「内藤が病気になるって苦しみますように」とか書いてあります。自己中心的にも程がある願いです。内容は書きませんがW不倫のカッパルがおそろしく本名で書いたであろう内容の絵馬の前では只立ち尽くすしかありませんでした。何とも疲れるお宮さんでした。

卓話

「葬儀にまつわるあれこれ」

(株)一柳葬具総本店

取締役社長 一柳 鍾さん

(名古屋中R.C)



卓話の依頼を受け恐縮しております。表題は「葬儀にまつわるあれこれ」であります。葬儀に関するのあれこれとなります。このようなお話すればいいのか戸惑っております。したがって時間の許す範囲で項目を立てお話しいたします。

1. 葬儀業者の原点

一柳は明治10年の創業です。今年133年になります。当時

は葬具商一柳商店と言いました。葬具商とはお葬式のお道具を葬儀が発生したとき速やかに用意するのが第一の使命でありそれが仕事であります。

お棺をはじめ葬儀の道具は白木材であり、中には紙細工・藁細工のものもありました。また宗教宗派よって道具が違い種類も大変多く、時間にも制限があり手際良さを合わせ仕事をしなければなりません。今もなお一柳の社名には葬具の二字が残されています。仏壇など通常の仏具道具類は金ぶつ・漆りものがあります。

いくらご自宅のお宅でもお葬式のお道具はお持ちではありません。現在の葬儀事業者は、葬儀の様子だけに注意をそそぎ上辺部分だけにすぎず、その葬儀姿勢には問題があると指摘したいと思ひます。

2. おくぐり

最近話題になりました「おくぐり」とは「おくりびと」とも呼ばれたものは、昔納棺のとき戸を立て室内を暗くし、極内輪でかざられた家族の立会いで納棺人夫と称した特定の職業化した人、即ち人夫さんの手で納棺はなされました。遺体は見せたくない、見られたくないという考えがあったのです。従って従前は居合わせた家族で綿花「アルコール」を湿し、形式的ではありますが遺体を拭き納

棺をしました。「おくりびと」とは納棺人夫のことをいうのであります。

3. 霊柩車のいんぐん

名古屋にはその昔霊柩電車がありました。霊柩車の第一号車は大正3年〜12年製のウィム号を大正末期に二柳がアメリカより輸入し霊柩車として使用いたしました。霊柩車にも名古屋式があり黒檀製宮型霊柩車はじめ各種別を説明し、有名な夢の霊柩車をスライドで説明いたします。

【反】 インターネット速報

ロータリアンが見た

ハイチ大地震後の混乱

ヒューストンロータリークラブの会長であるミシェル・ポリアさんの夢は、いつの日かハイチを訪問し、現地の子どもたちの生活改善のためのプロジェクトを行うことでした。

1月12日、そのプロジェクトを行うために一週間の滞在予定で同クラブの一行がポルトープランス空港に到着してから45分後、彼女の夢は一瞬にして悪夢に変わりました。

大地震が襲ったその時、ポリアさんと5名のヒューストンのロータリアンから成るチームは、孤児院での水プロジェクトを実施す



地震によって半壊した教会（ハイチ、ポルトープランス）。

るためにハイチの首都に向かっていました。地震は、広範な地域に壊滅的な打撃をもたらしました。

「地震発生の数分後、何千人もの人々が道路にあふれかえり、走ったり、叫んだりしていました。大勢の人々が血まみれで歩いていました」とポリアさんは振り返ります。「大惨事が起こったのだとその時わかりました」

2000年ぶりの大地震となった今回の地震によって、首都は壊滅状態に陥り、20万人の命が失われ、数百万人が負傷しました。被災者に食糧、水、薬を届けるために、大規模な国際的救援活動が動き出しました。

「その光景、音、匂いは想像を絶するものがありました。決して

忘れることはできません」と話すのは、チームの一員だったヒューストン・クラブの元会長、ウィッキー・ブレンティンさんです。「私は、負傷し怯えている子供たちの手を引きながら、助けを乞うその親たちの目を見つめました。その姿が目に見えなくて離れませんでした」

すぐに出国できなかった一行は4日間ポルトープランスにとどまり、できる限り人々の助けになろうと努力しました。崩壊した病院を見つけた彼らは、がれきの中から鎮痛剤や抗生剤を集め、けが人たちに配りました。

「負傷があまりにひどく、手元にあった薬では十分でないこともありましたが、それでも、誰かが手当てをしてくれていると知るだけで、彼らに希望が与えられると思っただけです」とポリアさん。「ロータリアンであることをあれほど誇りに感じた瞬間はありません」

1月15日、チームはチャーター機でドミニカ共和国に避難し、翌日、無事ヒューストンに戻りました。クラブの会員たちといつかハイチに戻って、復興を手伝いたいと、ポリアさんは語ります。

「ロータリアンである私たちはあのような困難な状況で苦しんでいる人々に手を差し伸べる義務があります」

安全な地から大惨事の現場へ

大地震の翌日、ピニオン・ロータリー・クラブ会員のカレブ・ルシアンさんと9人のハイチ人が、被害状況を調べ、被災者を助けるために、136キロ南に離れたピニオンからポルトープランスにやって来ました。

「街は完全に破壊されています」と、第7020地区（カリブ海諸国）の保健・飢餓追放支援グループ・コーディネーターであるルシアンさんは話します。「車で現地へ向かう途中、何百もの遺体を見ました。これほどの命が失われたことが信じられません」

ルシアンさんは、被災者への水と食糧の配給のために、自ら3、



ジョン・ケニーRI 会長は2月23日にハイチを訪れ、地震による荒廃が予想以上であり、その惨状を画像で伝えることは不可能であると感じました。写真提供：第4060地区

500ドルを払いました。また、被災地に住んでいた知り合いのロータリアンの消息を調べたり、120人以上の負傷者をピニオンに避難させるのを助けました。

「悲惨さを感じたり、考えたりする余裕などありませんでした」とルシアンさん。悲しみはありましたが、とにかく一生懸命に活動し、ロータリアンに救援を呼びかけることに専念しました」

彼は、被災地に救援物資を届けるため、第7020地区のハイチ支援グループと密接に協力しています。同グループは、2年前、ハイチへの財政支援を行うために設置されました。

「今後2〜6カ月間、緊急に必要とされるのは避難所、食糧、そして水です」とルシアンさん。「長期的には、学校、病院、教会といった設備の再建をロータリーが援助していけることを願っています」

3月25日（木）例会の案内

卓話

「世界に誇る名古屋の伝統」

名古屋仏具研究会

代表 高田由太郎さん

紹介者 渡辺 観永さん

広報委員会

吉田 明夫・近藤 明美
横内 恭・浅井 隆宣